

# ひょうごの福祉

認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

## P2 特集

### 地域福祉を担う福祉専門職とその養成

P6 「ストップ・ザ・無縁社会」広がれ! 全県キャンペーン

P7 地域を駆ける! ワーカー物語

たくさんの人と出会える社協だからこそ、  
つながりを生むきっかけをたくさんつくりたい  
西脇市社会福祉協議会  
朝井 誠一郎さん

P8 みんなでつくるひょうごの福祉

地域とつくるサロンを目指して  
～「サロン・ド・カフェなごみ」の取り組み～  
「社協の移動販売いづかし号」は  
地域の暮らしを守っていく!!  
～淡路市社協の取り組みから～

P10 ひょうごの福祉NOW

P12 インフォメーション

2016

7

No.785

7月は「社会を明るくする運動の  
強調月間」だよ!



この機関紙は赤い羽根共同募金配分金により発行しています。

篠山市「日本遺産のまち」丹波篠山

篠山城大書院



# 地域福祉を担う 福祉専門職とその養成

「社会的孤立」が広がりを見せる中、高齢・障害・児童といった対象別の支援に限界が出てきている。これからは、「地域での生活の総合的な支援」と「共生のまちづくり支援」という両面が求められている。

今回の特集では、この両面を担う福祉専門職の取り組みを紹介しながら、そうした専門職像とこれからの養成課題を考える。



施設から地元の地域サロンに参加する女性  
なじみの人と会話で自然と笑顔がはじける(淡路市)

地域と協働して  
暮らしを支える

## ■施設入所前からの関係を 継続する支援(明石市)

「佐藤さん、よお来たなあ」  
昔から知る男性の声掛けに、佐藤さん(仮名)の顔がほころぶ。  
今日は、昨年夏から老人保健施設「恵泉」に入所している佐藤さん(99歳)が常連であった地域のサロン「里帰り」で。地域のボランティアグループ「こすもす」が月1回開き、近所の住民が朝からモーニングを食べに集まってくる。

「サロンでの佐藤さんの表情、すごくいいんです」と「恵泉」相談員の細川さんは話す。「認知症はあるけれど、昔を思い出したり、心の中で懐しむ感情が湧いてきて穏やかにいられます。サロンでは、私たちも知らないことまでよく見えました」。

サロンに集まった人からは、「この人、地区の老年クラブを立ち上げた功績者なんやで」「洋裁していてデパートの商品を作ってたわ」など、佐藤さんにまつわる話が次々



佐藤さん(左)と地域住民  
会話が弾む

に出でくる。  
みんなの輪の中で「この地区が好きや。ここが忘れられへん」と楽しく談笑する佐藤さんを見て、ある男性は「こんなふうには元に戻ってこられるなら、施設に入ってもええかなあ」とつぶやいた。  
佐藤さんがサロンに参加するようになったきっかけは、施設職員から市社協に施設の地域貢献について相談したこと。市社協から「地域に『里帰り』できそうな人がいれば社協がつなぐよ」と言われた。その後、家族から「地域の集まりによく出掛けていた」と聞いた施設職員

## 「地域福祉を担う」 福祉専門職

- 介護が必要な高齢者夫婦と同居する引きこもりの50代息子
- 軽犯罪を繰り返す母親と不登校の子どもの母子家庭

これらは福祉専門職や民生委員・児童委員が遭遇するケースの一例である。いずれも何らかのサポートができないかと気になりつつ、対応できるサービスがなかったり、本人が関わりを拒否したりして、そのままになってしまいがちである。近年、こうした課題が関係者の中で認識され、政策的にも注視され始めている。

このたび厚生労働省が発表した「誰もが支え合う地域の構築に向けた福祉サービスの実現―新たな時代に対応した福祉の提供ビジョン―(平成27年9月)」ではそうした課題に対応するため、「全世代・全対象型地域包括支援の体制構築」が提起された。ここでのポイントは、①住民

が、市社協に相談を持ちかけ、「こすもす」に佐藤さんを受け入れることとなった。

「恵泉」介護職員の政保さんは、「サロンに来たらなじみの方と話をして、佐藤さんは元気にられます。施設では、周囲の方に気兼ねされる部分もあるけど、ここでは自分が出せる感じです」と話す。

施設では、本人の体調を考えて、外出を2時間以内としており、本人にも介護職員にも負担は少なく、本人がなじみの人と過ごせるよう、こうした取り組みを他の入所者にも広げるといふ。

## ■施設と地域の共同ケアへ (淡路市)

特別養護老人ホーム「かおりの丘」でも2年前から入所者の地域サロンへの参加を支援している。これまで10カ所のサロンに入所者15人が参加した。きっかけは、特養の運営推進会議で、市社協職員が「入所者が慣れ親しんだ地元に戻る支援ができないか」と提起したことであった。始めは、「事故があったらどうなる」「入所者全員に外出支援をす

誰もがその人の状況に合った支援を受けられる包括的な支援体制づくり、②全ての人が共に生き生きと生活を送ることができ、地域コミュニティが活発に活動できる共生のまちづくりである。

問題は、これを誰が担うかである。全国的には、分野をつなぐコーディネーターを養成・配置する動きがある。加えて、所属組織はもちろん、多職種の専門職が理念を共有し、チームで力を合わせる重要性である。特に、共生のまちづくりに向けた支援は、福祉専門職の役割の一つであり、実践面でいっそう具体化していくことが期待されている。

こうした背景を踏まえ、県社協では、社会福祉従事者を広く「地域福祉を担う」福祉専門職として養成することを2020年計画に位置付けた。

次に、県内で先駆的に取り組む3つの実践事例を通して「地域福祉を担う」専門職像をひも解いていきたい。

「それができるのか?」という意見もあったが、本人と家族が希望すればやってみようとスタートした。

初めてサロンに入所者が参加した日。なじみの顔に囲まれて「ニコニコする本人の周りを住民が囲み、「あんだ、どこいったん?久しぶりやなあ」という会話が交わされた。帰り際の「またおいで」「また来るわ」の声の中で、サロンや地域の活動への参加を支援する取り組みが始まった。

「車いすに座ったままで体操したらええよ」とサロンに来るメンバーに促され、施設では動かしたことがない手足を動かす車いすの方。昔と変わらない説法をして「これからも説法を聞かせて欲しい」と住民に頼まれる認知症の方。住民同士の自然な関係の中で、その人のできることや役割が見えてくる。

支援に当たって相談員の清水さんは、「99%の本人の希望と1%のリスク管理の中で、外出支援ではリスク管理が先行しがち。そこが難しいが、施設では見られない、その人の人柄や歴史が見えて面白いですよ」と話す。





また、施設からすると地域に入るのはハードルが高く感じられるという。入所者と一緒にサロンに向いていた在宅介護支援センター元職員の川北さんは、スタート時、「地域では最初は部外者のようで居心地が悪かった。市社協職員につないでもらい、何度も足を運び、地域の人と一緒にご飯を食べて、一緒の時間を過ごすうちに、いろんな話ができるようになってきた」と話す。

これを契機に入所者と住民と施設職員のつながりが深まることで、新たに住民参加型の特養納涼祭が催されたほか、福祉専門職が講師となった介護教室が地域で始まった。「いずれは、住民が入所者を地域に連れ出すくらいに関係づくりができて、施設と自宅の行き来ができれば」と市社協職員は話す。

■多職種チームで支援

(宝塚市)

宝塚市社協では、平成24年度からコミュニティワーカーと相談支援職員、ケアワーカーが「校区チーム」で地域生活支援を担っている。チームが結成された背景には、こみ屋敷や

引きこもり、若年性認知症の人への対応など、既存の制度で対応できない相談が増え、住民と福祉専門職が協力して支援できる体制をつくる必要があったからである。

一方、地域福祉計画・推進計画に基づき、各地域には生活課題を住民が話し合い、解決するための「力合わせ」の場が10年かけて何層もつくられてきた。自治会等のエリアに「地域ささえあい会議」、小学校区エリアに「校区ネットワーク会議」、全市対応で課題解決の仕組みをつくるための「セーフティネット会議」がある。校区チームは、これらの場を生かし、地域と協働して住民の生活を支えている。

当初、チーム結成を「せひやるべきだ」という市社協役員に対し、職員からは負担が大きいななどの理由で反発の声も強かった。そのため、職員らがお互いの考え方や情報を持ち寄る場をつくりながら、実践の後押しを続けてきた。

第1地区担当課長の辻井さんは、「時間はかかったけれど、利用者以外の住民からの相談にも一緒に対応することで、地域と協働した質の

高い支援ができる実感が湧いてきた」と話し、実践の積み上げの大切さを強調する。

第1地区の校区チームは昨年度21件の支援を行った。チームとしては、高齢分野の福祉専門職が中心であるが、ケースの3割は若年層である。例えば、経済状況が心配される母と成人した子どもの世帯や独居の中年男性のケースである。いずれも、近隣住民や行政等が気に掛けていたものの支援には至っていなかったケースで、校区チームが支援のきっかけをつくった。支援を行う中で、本人のことを気に掛ける住民と協力して、緩やかな見守りを継続し、本人の持つ力を生かすよう関わったことで就労にもつながったという。支援にあたった訪問介護担当課長の紀野さんは、「住民を交えた『地域ささえあい会議』に出席し、引くに引けなくなった。不安もあつたが、本人の力、地域の力という資源で何とかできることが分かってきた」と話す。毎月の校区チーム会議では、10件以上の気になる人の情報が出される。

福祉専門職と住民の協働による

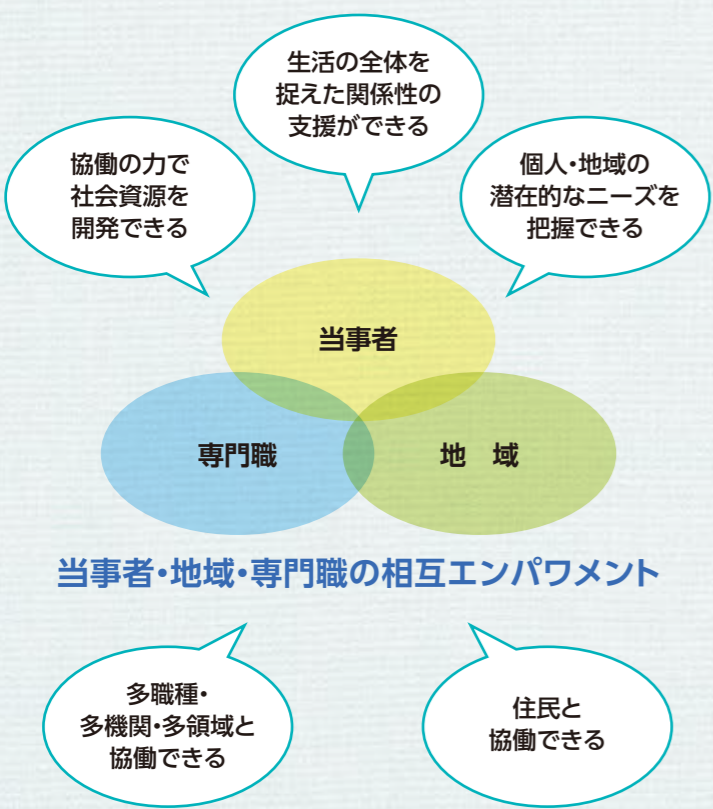
福祉専門職の養成課題

利用者の暮らしづくりを大切に、地域住民とのつながりを継続したり発展させたりする支援を、福祉専門職と住民が協働で取り組む実践事例を紹介した。そのような「地域福祉を担う」福祉専門職に求められるポイントが図1である。

福祉専門職には、要援護者の生活課題に個別にアプローチするだけでなく、地域の力に着目し、孤立しがちな人を含めみんなが地域で生活できる条件を住民と一緒に創る役割が求められる。

これは制度の後ろ盾があるからできるとか、福祉専門職が先導したから進むわけではない。その意味では、福祉専門職の根本的な意識の転換が伴うと言える。つまり、福祉専門職が「地域を巻き込む」発想ではなく、「地域に巻き込まれる」発想に立つことだ。そして、福祉のほか、医療・保健、まちづくりなど生活全体に関わる課題を地域住民と一緒に考え、自分をさらけ出し、汗を

■図1 福祉専門職に求められるポイント

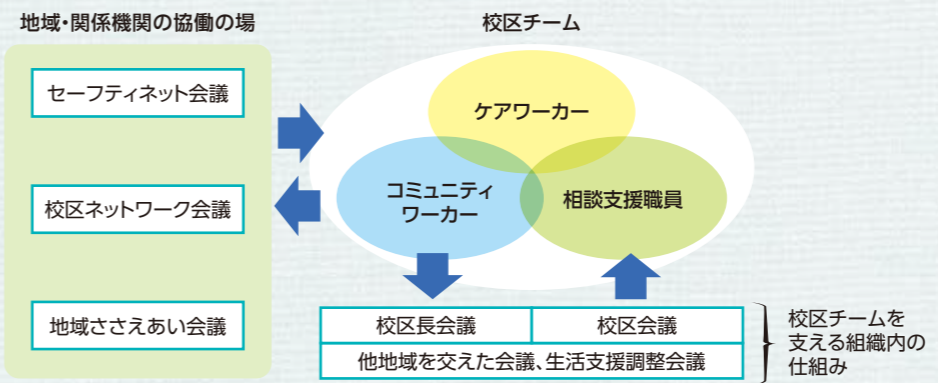


かく。その過程の中で、当事者、地域住民と福祉専門職が相互にエンパワメントされ、次の展開と一緒に見出すという姿勢が重要である。さらに、所属組織の使命として、福祉専門職が地域づくりに付き合っていくことをマネジメントすることも鍵となる。

に地域福祉研修を実施する。また、組織理解を促進するために、福祉マネジメント研修を充実する。今後、「地域福祉を担う」人材の養成について、県社協と市町社協会福祉施設等が協働で切り開いていく。

※地域福祉研修の概要はP10をご参照ください。

■地域の暮らしをチームで支えるための仕組み(宝塚市)



生活支援は、個別支援にとどまらない。生活課題を地域の課題として捉え、住民が考えるための働き掛けとして、市社協のほか、他の福祉事業者にも声を掛け、住民と専門職で劇団「きずな」を結成。サロンや地域のイベント等で上演している。



住民と専門職が結成した「劇団きずな」の啓発劇

このコーナーでは、県内の社協職員など“地域福祉を進める人々”の活動を取り上げながら、ワーカーとしての想いを伝えます。

「家は全壊したけれど、人と人との絆を再確認できたことは良かったわあ」  
 これは、平成28年熊本地震で被災し、病弱ながらも全壊した家屋のそばのテントで暮らしている高齢者が発した言葉です。5月末から6日間訪れた西原村災害ボランティアセンターの運営支援で出会った高齢者のこの言葉は、人が地域社会とのつながりの中で生きていることを実感させられるものでした。

西脇市社協で地道に取り組んできた、ふれあいいきいきサロンやボランティア養成講座も、人と人とのつながりをつくっていく活動と考えていたため、これまでの活動に自信を持つことができました。

力を入れた活動は？



「最近どうですか？」の何気ない会話からつながりが生まれる

たとえ障害や病氣、認知症であっても、自分が望む暮らしを続けることができる地域にするために、「一人にならない、させない」ことに力を入れています。社協には、生活全般の相談や問題が寄せられます。いつも気を付けていることは、その人だけの課題と捉えないことです。他にも同じ状況にある人やこれから同じ状況になる人がいるかもしれないと考え、住民と共に解決に取り組み、自分のこととして考え、きっかけにしたいと思っています。

大切にしていることは？

西脇市社協の福祉目標は「もつとええまち・西脇くだれもが安心して暮らせる福祉のまちづくり」です。「住み慣れた地域で安心して暮らしたい」との願いを実現するために、人と人、ワーカーと各種専門機関とのつながりをしっかりとつくることを求められていると思います。この「つながりづくり」を通じて福祉目標に近づいていきたいです。

取材を終えて

被災者との関わりの中で、日頃の活動が支え合いの種まきである、いざという時の安心につながることを実感された朝井さん。これからは後進へ伝えることも自身の役割と語られていたのが印象的でした。

西脇市社会福祉協議会  
あさい せいいちろう  
朝井 誠一郎さん

Personal History

- 22歳 社協入局。生活福祉資金、在宅福祉サービスなどを担当
- 27歳 日常生活自立支援事業担当
- 32歳 西脇市・黒田庄町社協合併協議会担当
- 34歳 ふれあいいきいきサロン担当
- 44歳 地域福祉課主査



地域を駆ける！  
ワーカー物語

たくさんの人と出会える社協だからこそ、  
つながりを生むきっかけをたくさんつくりたい

「心に残るエピソードは？」



TOPICS

全県キャンペーンの幹事会を開催しました！

6月21日、各幹事団体より11人のご出席をいただき、全県キャンペーン推進協議会の幹事会を県福祉センターで開催しました。

冒頭に、兵庫県社協会長の交代に伴い、吉本知之会長が代表幹事に選任されました。

就任あいさつでは、「今年度より新たなステージでのキャンペーン展開となる。『ニッポン一億総活躍プラン』における『地域共生社会の実現』や、兵庫県の地域創生戦略にも『多様性と連携』が基本とされるなど、我々が目指す支え合い社会に通じるものだと考えている。『認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉』のスローガンが県民の皆さまに浸透し、いかに実践活動につなげていけるか。支え合いの気運が高まってきている。今後もこの活動を粘り強く進めることが大切である」と話されました。

続けて、平成27年度の事業報告・決算と、平成28年度事業計画・予算の協議を行いました。

「コミュニティカフェ」開設応援事業のご案内  
～地域の居場所づくりを応援します～

地域社会では、社会的孤立を背景にさまざまな生活・福祉課題が生じ、住民が主体となった見守りや支え合いの活動が展開されています。

本会では、兵庫県の「ふるさとひょうご寄附金」を活用し、住民同士の交流や支え合いの拠点となる「コミュニティカフェ」の開設を応援する助成事業を始めます。

助成は、総額200万円。コミュニティカフェを開設する際に必要な経費や、開設に向けた講座等の開催経費に対して行います。

詳細は後日、本会および市町社協を通じてご案内いたします。



※写真はイメージです

「ストップ・ザ・無縁社会」  
広がれ！全県キャンペーン  
<http://stop-muen.jp>

「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの最新情報や、支え合いのメッセージをお伝えします。

出席者から出された主な意見

- 福祉以外の場面で、キャンペーンをPRしていくことも一つの方法ではないか。
- 助成金を有効に使ってもらえるように、きちんと現場の意見を反映することが大切。

協議の結果、平成28年度は幹事団体の取り組みを集約・発信し、推進団体と共に、より具体的にキャンペーンを広げていくことが確認されました。



協賛事業を募集しています

「ストップ・ザ・無縁社会」の趣旨に合致する事業がありましたら、協賛事業として本紙面およびホームページで広報いたします。

キャンペーンの取り組みを全県域に広げていくために、ぜひお知らせください！

※専用ホームページ(<http://stop-muen.jp>)からダウンロードできる「参画同意票」によりご連絡ください。

これまでの協賛事業の様子



Ricoの夏まつり

第6回はっぴ〜カーニバル

淡路市社協が運営する地域生活多機能拠点「いづかし」の杜」では、今年2月から市内の集落約50カ所で食品や日用品の移動販売を始めたよ。この移動販売は買い物に困難な人にとっての利便性向上ということだけではなく、地域の見守りや障害者の社会参加の場にもつながっているんだ。

地域で支え合い、地域を元気にする取り組みを紹介します。



NPO法人西播磨福祉支援協会が運営するデイサービスふる里では、月に3回「サロン・ド・カフェなごみ」というサロンを開いているよ。住民が気軽に集まれる場としてだけでなく、デイサービスの利用者や地域の住民をつなぐ場にもなっている「なごみ」の取り組みをのぞいてみよう！

# みんなで作る ひょうごの福祉

**「いづかし号」による移動販売**  
 過疎化や人口減少が進む山間部等では、商店や公共交通機関の撤退が進んでいる。移動手段を確保しにくい高齢者等は、食料品や日用品など日常の買い物に困難な状況に置かれている。  
 淡路市社協では、今年2月から暮らしに身近な集落で買い物ができるよう「社協の移動販売いづかし号」による移動販売を開始した。食料品や日用品など約300点を軽トラックに積み、月曜日から金曜日まで山間部の集落を巡回している。  
 移動販売を行うのは、「いづかし」の杜。淡路市仁井地区にあり、区内唯一の商店だ。「こは、住民の交流の場に加え、障害者の就労の場ともなっている。  
 「いづかし号」には、「このいづかし」の杜で働く障害のあるメンバーもスタッフとして乗り込み、移動販売を行っている。  
**笑顔を超える「いづかし」**  
 興隆寺地区では、毎週金曜日の午前中に「いづかし」がやってく

**交流から広がる支え合い、福祉のまちづくりに向けて**  
 障子を外した開放感のある日本家屋に、ふわりとアロマの香りが漂う。今日は宍粟市山崎町にある「デイサービスふる里」で開催される「サロン・ド・カフェなごみ」の日だ。デイサービスの利用者や地域の住民が、和やかに談笑しながらアロマセラピーを楽しんでいる。  
 「なごみ」は、「もつと地域に貢献したい」と考えたNPO法人西播磨福祉支援協会が、兵庫県の「地域サポート事業(安心地区)」を活用して始めたサロンだ。デイサービス内のフリースペースを生かし、お茶会や認知症講習会、介護予防運動など、集まった人々の要望に合わせてイベントも企画する。  
 特徴はデイサービスの利用者や地域の住民が交流できる点だ。取材日も、「普段はデイに通っているけど、今日はみんなと話すの」と瞳を輝かす女性や、人生の先輩たちからアドバイスをもらう子育て中の母親の姿が見られた。世代を問わない交流にも力を入れるなど、プログラムを工夫している。

## 「社協の移動販売いづかし号」は地域の暮らしを守っていく!!

～淡路市社協の取り組みから～

**買い物で広がる支援の輪**  
 「いづかし号」の目的は、単に買い物支援を行うことだけではない。集落を巡回することによって、その地域の状況を把握し、生活課題やニーズの発掘にもつなげようとしている。また移動販売が近隣住民の顔を合わせ機会となることで、住民同士



買い物をきっかけに交流の輪が広がる(興隆寺地区)



いづかし号「なんでも屋」。住民交流の場となっている。

## 地域とつくるサロンの目指して

～「サロン・ド・カフェなごみ」の取り組み～

**住民が集まるカフェにしたい**  
 「なごみ」が今、力を入れるのは、住民を巻き込んだイベントの企画だ。常連の利用客に太鼓を習う人がいれば、今度、「なごみ」で披露してよ」と声を掛ける。活動をより多くの人に知ってもらうため、地区の一端も担う。  
 これらの活動は、自治会役員、民生委員・児童委員、地域の商店や郵便局などの地域をよく知る住民や、社協などの専門職をメンバーとする推進協議会で方針を協議し、決定している。推進協議会は、サロン活動を通じて気になった人の様子を共有するなど、地域の見守り支援の一端も担う。



大人も子どもも盛り上がるマジックショー



アロマセラピー後のお茶会でわいわい楽しく顔なじみに

### 取材を終えて

いづかし号では買い物中にお茶のサービスがあるなど、その場の雰囲気や和むようきめ細かい取り組みがなされており、車を取り囲んでの皆さんのすてきな笑顔が印象的でした。

淡路市社会福祉協議会  
 地域生活多機能拠点 いづかし号  
 TEL 0799-62-5214

### 取材を終えて

地域の福祉活動の拠点にも取り組む「なごみ」は、サロン後には、集まった人がその日に姿の見えなかった人へ自主的に電話や訪問をしているそうです。多様なつながりをきっかけに、住民同士の見守りの芽が育っています。

サロン・ド・カフェなごみ(デイサービスふる里内)  
 宍粟市山崎町上ノ557  
 TEL 0790-65-0263

自治会や老人会の集まりにも足を運ぶ。  
 「目標は、住民から「こんなことをしたい!」と提案され、やりたいことを実現する場として「なごみ」が活用され、自分たちの拠点として住民が集まってくること。そうなれば、もっと多くの住民が元気を共有し合える場になる」と、中心スタッフの松村恵里香さんは力強く語る。  
 地域と共にひたむきに走り続ける「なごみ」の活躍に、今後も目が離せない。

の交流や見守りの機会ともなっている。興隆寺地区で民生委員・児童委員をしている春藤哲良さんは「移動販売の日には、車が帰った後もみんなでその場に残留して談笑するなど、交流が深まった」と話す。  
 さらに「いづかし」のメンバーがスタッフとして参加することで、障害者の社会参加や理解促進にもつながるなど、いくつもの取り組みが同時に進められている。  
 集落における課題を、福祉的な手法によって解決していく淡路市社協ならではの取り組みといえるだろう。

平成27年度県社協の  
事業・決算報告

5月25日、本会の第243回理事  
会第188回評議員会が開催さ  
れ、事業報告と決算が承認され  
た。概要は次のとおりである。

「ストロップ・ザ・無縁社会」  
全県キャンペーンの展開

キャンペーンの全県普及のため、  
「地域フォーラム」や「推進フォー  
ラム」の開催を県内28団体に支援し、  
「支え合いのまちづくり推進フォー  
ラム」を開催した。

県社協アクションプランに  
基づいた取り組み

Action 1 市町村での地域福祉の  
推進力を高める支援

社協ワーカー実践研究会議等の開  
催を通じ、市町村協の組織基盤強化  
を支援した。また、生活支援コーデ  
イーター養成研修や「地域福祉をま  
ちづくり」とともに進める研究会を  
開催し、多様な主体が連携し地域生  
活を支える実践の推進を支援した。

Action 2 多様な主体がつながり、  
資源が循環する仕組みづくり

「ひょうごボランティア地域づく  
りネットワーク会議」等を開催し、協

平成28年熊本地震被災地支援活動レポート

熊本地震発生からまもなく3  
カ月。熊本県では今も6633人  
が避難生活を送る中、兵庫県内の  
社協は、全社協の要請の下、滋賀  
県・京都府・奈良県と4月末より  
熊本県阿蘇郡西原村に災害ボラ  
ンティアセンターの運営等の支  
援のため延べ65人の職員を派遣し  
ている。※記載状況は6月13日時点

半数以上の世帯が被災した村

総面積の8割を原野と山林が  
占める西原村は、震源の布田川断  
層が村を縦断し、隣接する益城町  
や南阿蘇村等とともに甚大な被  
害を受けた。土砂災害もあり、現  
在も一部地域で断水や通行止め  
が続く。

<西原村>  
(平成28年3月1日時点)  
人口:7,070人  
世帯数:2,530世帯  
65歳以上人口:28.1%

<被害状況>  
(平成28年6月13日時点)  
死者:5人  
重軽傷者:58人  
避難者数:547人(指定避難所計)  
全壊:506世帯  
半壊:776世帯

働の促進を支援した。また、災害ボラ  
ンティア割引制度の実現に向けた活  
動のほか、兵庫県旅館ホテル生活衛  
生同業組合と「災害ボランティアの  
宿泊支援に関する協定」を締結した。

Action 3 質の高い福祉サービスの  
充実・開発

就職総合フェアに加え、福祉体験  
学習事業、福祉の職場見学ツアー等  
を新たに実施した。社会福祉研修所  
では社会福祉従事者研修体系を新

一般会計資金収支計算書

(単位:千円)

区分	収支	一般会計	資金収支内訳表			
			社会福祉事業	公益事業	収益事業	内部取引消去
事業活動による収支	収入 支出	2,227,357 1,158,648	391,854 403,972	1,837,071 766,192	18,166 8,218	-19,734 -19,734
事業活動資金収支差額		1,068,708	△12,118	1,070,879	9,948	0
施設整備等による収支	収入 支出	0 4,332	0 3,223	0 1,108	0 0	0 0
施設整備等資金収支差額		△4,332	△3,223	△1,108	0	0
その他の活動による収支	収入 支出	4,967,005 5,975,195	819,281 756,536	4,214,917 5,275,904	0 9,948	-67,193 -67,193
その他の活動資金収支差額		△1,008,190	62,745	△1,060,987	△9,948	0
当期資金収支差額合計		56,186	47,403	8,782	0	0

生活福祉資金会計資金収支計算書

(単位:千円)

区分	収支	生活福祉 資金会計	生活福祉資金 (災害)会計	生活復旧 資金会計	要保護世帯向け 不動産担保型 生活資金会計	生活福祉 資金貸付 事務費会計	臨時特例 つなぎ 資金会計
事業活動資金収支差額		105,565	8,616	3,446	△45,393	△199,924	△8,720
施設整備等による収支	収入 支出	0 0	0 0	0 0	0 0	0 963	0 0
施設整備等資金収支差額		0	0	0	0	△963	0
その他の活動による収支	収入 支出	5,010,067 9,220,619	11,408 23,749	24 848	20,328 120	202,652 1,764	0 453
その他の活動資金収支差額		△4,210,551	△12,341	△823	20,207	200,888	△453
当期資金収支差額合計		△4,104,986	△3,725	2,622	△25,185	0	△9,174

Action 4 暮らしのセーフティネット、  
の充実・強化

福祉サービス利用援助事業の実  
施や市民後見推進研修の開催を通  
じて権利擁護・生活支援の取組み

たにまとめるなど、福祉人材の確  
保・育成に向けた取り組みを進め  
た。また、社会福祉法人の地域公益  
活動の推進に向け、社会福祉法人連  
絡協議会の立ち上げ支援を行い、推  
進セミナーを開催した。

を進めるとともに、若年性認知症の  
当事者グループの設立を支援した。  
また、生活困窮者支援における社協  
の支援力向上のため、家計相談支援  
研修や自立相談支援事業実施社協  
情報交換会等を開催した。

**災害時の支援体制強化  
に向けた取り組み**

災害救援ボランティア活動支援  
関係団体連絡会議等を充実させた  
ほか、関東・東北豪雨災害や東日本  
大震災の被災地支援に取り組んだ。  
※事業・決算報告は本会ホームページ  
でも掲載している。

**「地域福祉基礎研修」の受講者募集** 新規研修

地域福祉の基本の「き」を学びたい人のための研修です。  
ぜひ、ご参加ください。

**開催期日** ※2日間にわたって開催  
1日目 平成28年8月22日(月) 10:20~16:30  
2日目 平成28年8月23日(火) 10:30~16:30

**講師** 藤井博志氏(神戸学院大学教授)、  
所めぐみ氏(関西大学教授)ほか

**定員** 100人(先着順) **参加費** 8,200円

**問い合わせ先** 兵庫県社会福祉研修所第1部 TEL 078-367-3001  
※社会福祉研修所ホームページから開催要領をダウンロードし  
ていただけます

**URL** <http://www.hyogo-f-kensyu.jp/>

災害ボランティアセンターと  
福祉救援活動

西原村災害ボランティアセン  
ターでは、4月27日より広くボラ  
ンティアを受け付け、倒壊した塀  
や瓦の除去、屋内の片付け等を  
行ってきた。しかし、家屋が「危  
険」と判定されたり、断水等で家  
に帰れない状況にある住民も多  
い。最大約2900人の避難者は  
減少したが、今なお車中や倉庫等  
で寝起きする人もいる。

一方、村社協は、発災直後から  
要介護高齢者等の福祉避難所も  
担い、職員が地域に出ることが  
難しかった。そこで、村社協本来  
の活動や事  
業ができる  
よう派遣職  
員を増員  
し、福祉避  
難所運営な  
ど柔軟に支  
援した。



福祉避難所となった社協内の様子

村社協職員と共に村内を巡回  
し、住民に聴き取り調査も実施。  
「近所の○○さんが遠慮してい  
る」の声でボランティアや行政  
等へつないだり、「このくらい、自  
分ができる」という方には支援の  
タイミングを計って継続的に見  
守るなど、社協ならではの活動を  
展開している。



住民の声を聴く社協職員

要援護者支援では、福祉施設  
や職能団体から専門職が派遣さ  
れているが、必要なケアがより  
円滑に届くよう「熊本地震・共同  
支援ネットワーク」が兵庫県内の  
複数の社協等を中心に設立さ  
れた。熊本県内での訪問調査・情

災害支援金の贈呈

6月14日、兵庫県社協吉本知之  
会長が熊本県社協を訪問し、災害  
支援金を贈呈した。



助成金情報

福祉活動等に対する助成金の情報です。詳細は、それぞれの問い合わせ先にご確認ください。

公益財団法人木口福祉財団  
平成28年度被災地復興助成

熊本地震や東日本大震災などの自然災害で被災した障害者を支援する活動に助成します。

対象 福祉団体、ボランティア市民団体(個人での申し込み不可)

助成額 1件上限50万円(総額600万円)

締切り 平成28年8月4日(木)

公益財団法人木口福祉財団  
TEL 0797-21-5150

URL <http://www.kiguchi.or.jp/>

募集

第18回人間サイズのまちづくり賞

まちなみや建築物、ユニバーサルデザインのまちづくり、花と緑のまちづくり、もしくはまちづくり活動を行っている団体または個人を顕彰します。(自薦・他薦不問)

募集部門 まちなみ建築部門、ユニバーサルデザイン部門、花緑部門、まちづくり活動部門

締切り 平成28年7月15日(金) 消印有効

兵庫県県土整備部まちづくり局都市政策課都市政策班  
TEL 078-341-7711

URL [https://web.pref.hyogo.lg.jp/wd20/wd20\\_000000008.html](https://web.pref.hyogo.lg.jp/wd20/wd20_000000008.html)

研修・イベント

「改正社会福祉法」最新情報&制度  
改革対応セミナー

日時 平成28年7月22日(金)13:00~16:30  
(受付12:00~)

会場 ANAクラウンプラザホテル神戸  
10階 ballroom

参加費 会員法人無料、非会員法人5,000円

締切り 平成28年7月13日(水)

兵庫県社会福祉法人経営者協議会  
TEL 078-242-4635

URL <https://www.hyogo-wel.or.jp/>

黒田裕子記念神戸フォーラム2016

日時 平成28年9月24日(土)14:00~17:00、  
9月25日(日)10:00~16:30

会場 神戸コンベンションセンター国際会議場

参加費 2日間参加:会員3,000円、非会員  
4,000円、24日のみ参加:会員2,000

円、非会員2,000円、25日のみ参加:  
会員2,000円、非会員3,000円

締切り 平成28年9月2日(金)17:00

特定非営利活動法人日本ホスピス・  
在宅ケア研究会  
TEL 078-335-8668

URL <http://kurodakinen.okoshi-yasu.net/>

福祉のしごと 職場見学バスツアー  
職員の案内で、施設を見学するバスツアー  
を開催します。

対象 福祉分野に就職希望の人、興味  
や関心のある人(高校生や親子  
での参加も可能)

参加費 無料

定員 各コース10人(先着)  
※事前申し込みが必要

集合場所 神戸駅南口 ロータリー(全コー  
ス共通)

◆但馬コース  
日時 平成28年8月5日(金)  
8:30~17:30(8:15に集合)

訪問先 ①和生園(障害者施設)  
②特別養護老人ホームあさがお  
ホール(高齢者施設)

◆神戸コース  
日時 平成28年8月19日(金)  
9:15~17:00(9:00に集合)

訪問先 ①ホーリーツリー西部(障害者施設)  
②介護老人福祉施設 梅香園(高  
齢者施設)

◆阪神コース  
日時 平成28年9月2日(金)  
9:00~17:00(8:45に集合)

訪問先 ①北摂三田福祉の里(複合施設)  
②特別養護老人ホーム ふじの里  
(高齢者施設)

◆淡路コース  
日時 平成28年9月16日(金)  
9:15~17:00(9:00に集合)

訪問先 ①あわじ荘(高齢者施設)  
②地域密着型特別養護老人ホーム  
ほほえみ(高齢者施設)

◆兵庫コース  
日時 平成28年9月24日(土)14:00~17:00、  
9月25日(日)10:00~16:30

訪問先 兵庫県社会福祉協議会 福祉人材  
センター  
TEL 078-271-3881  
<https://www.hyogo-wel.or.jp/>



行事予定

- 7月 4日 県地域包括・在宅介護支援センター協議会 新任職員研修会  
◆県福祉センター
- 5日 福祉事業推進部会  
◆県福祉センター
- 6日 地域福祉推進部会  
◆県福祉センター  
市町社協活動推進協議会幹事会◆県福祉センター
- 11日 権利擁護部会◆県福祉センター  
保育リーダーゼミナール(全4日間)◆県社会福祉研修所
- 12日 医療扶助・介護扶助事務担当者研修◆県社会福祉研修所
- 21~22日 相談面接技術研修 初級・Aコース◆県社会福祉研修所
- 22日 経営協7月例会・制度対応セミナー  
◆ANAクラウンプラザホテル神戸
- 23日 民間社会福祉事業職員互助会  
バレーボール大会2016  
◆ワールド記念ホール
- 25日 第2回社会福祉政策委員会  
◆県福祉センター
- 26日 相談面接技術研修 中級・Aコース(全2日)◆関西学院大学
- 27日 相談面接技術研修 中級・Bコース(全2日)◆関西学院大学  
社会福祉援助基礎研修 Aコース(全2日)◆県社会福祉研修所
- 8月 2日 福祉人財育成セミナー◆県民会館
- 3日 前頭側頭型認知症家族交流会  
◆県福祉センター
- 5日 会計実務担当者研修基礎編  
◆県社会福祉研修所  
福祉のしごとと職場見学バスツアー  
(第1回)◆和生園・あさがおホール
- 9日 相談面接技術職員研修 中級・Aコース②◆関西学院大学
- 10日 相談面接技術職員研修 中級・Bコース②◆関西学院大学
- 19日 福祉のしごとと職場見学バスツアー  
(第2回)◆ホーリーツリー西部・梅香園
- 26日 職場研修プレセミナー  
◆国際交流センターイーグレ姫路
- 31日 福祉の就職説明会(姫路会場)  
◆ホテル日航姫路

**新たんば荘**  
四季折々の「丹波」の味覚  
を楽しみ、  
城下町「篠山」を散策

篠山市郡家451-4 079-552-3111

**津名ハイツ**  
7月より耐震工事のため  
休館します。  
来春OPEN予定!

淡路市志筑162 0799-62-1561

**赤穂ハイツ**  
瀬戸内海に臨む眺望は  
「素晴らしい」の一言。  
名物「鯛ソーマン」は絶品!

赤穂市尾崎向山 2470-64 0791-48-8935

**いこいの村はりま**  
エメラルドグリーン  
の芝生が広がる敷地。  
森林浴などいかがですか

加西市笹倉町823-1 0790-44-1750

**ひょうご憩の宿グループ**  
\*互助会指定割引施設\*

◎四季プラン 9,800円(税込)  
◎シニアぷらん 8,000円(税込)  
各施設お得な宿泊プランを取り揃えています

**六甲保養荘**  
温泉に浸り、夜は阪神間  
の夜景を愛でながら四季  
の景観をお楽しみ下さい

西宮市越水社家 郷山1-95 0798-73-1351